

〔報 告〕

初めて母乳育児を行う母親の情緒的側面に作用した家族のかかわり

水谷さおり¹⁾ 岡田 由香²⁾ 山口 桂子³⁾

要 旨

目的：初めて母乳育児を行う母親自身が認知した家族のかかわりは何か、またどのような情緒的作用があったのかを明らかにすること。

対象と方法：産後1か月健診の終了時に、母乳育児を行う初産婦17名に、妊娠期から産後1か月までの各時期における「母乳育児についての思いや行動」とその理由について半構成的面接を行い、質的記述的に分析した。

結果・結論：合計9つのカテゴリーが抽出された。《母乳育児に専念させる家族のかかわり》となった、プラスに作用した4つのカテゴリーは、【母乳育児を行う母親の気持ちに寄り添うかかわり】【母乳育児を行う環境を整えてくれるかかわり】【母乳育児に限らず夫が妻として気遣ってくれるかかわり】【母乳育児の経験からくる実母・義母のかかわり】が抽出された。そして、《母乳育児を妨げる家族のかかわり》となった、マイナスに作用した5つのカテゴリーは、【母乳育児の知識不足からくるかかわり】【安易にミルクを勧めるかかわり】【父親になりきれない夫のかかわり】【実母・義母が、母乳育児の経験や昔の知識に当てはめるかかわり】【家族が働いていることによる期待できない母乳育児へのかかわり】であり、それらは家族の立場によっても分けられた。母乳育児を行う母親の情緒的側面にプラスに作用した《母乳育児に専念させる家族のかかわり》が、母親が求めている家族のかかわりであると考えられる一方で、マイナスに作用した《母乳育児を妨げる家族のかかわり》があることがわかった。

キーワード：母乳育児、初めて母乳育児を行う母親、家族、情緒、エモーショナルサポート

1. 緒 言

2005年の母乳育児についての調査で、妊娠中に「母乳で育てたい」と思っている母親の割合が96%に達したが、産後1か月の母乳栄養率は42.4%と伸び悩んでいる(厚生労働省, 2005)。母乳で育てたいと思っている母親たちを支援するためには、エモーショナルサポート、すなわち情緒的サポートが必要である(橋本, 1994)と述べられているが、その概念は明確には定義されていない。母乳育児支援を考える際、野口(1999)は、「気持ちにかかわる

ケア」を重視する必要があると述べ、本郷(2000)は母乳育児のエモーショナルサポート(精神的支援)とは、母親が「母乳育児を応援してもらっている」「自分が大切にされている」と思えるような基礎となるもので、「自分の感情をよく聴いてもらえる」「裏づけのしっかりした情報を提供してもらえる」「画一的な指導ではなく、十分な情報の中で母親自身が選択できる」「母親に最良の選択ができる力があるのだと信頼してもらえる」ことであると述べている。また、名和、服部、堀内他(2007)は、母乳育児の実態と課題について、スタッフのケアの統一やエモーショナルサポートの必要性と妊娠期からの一貫した支援を評価し、退院後を見越した支援

1) 愛知県立大学大学院看護学研究科

2) 岐阜医療科学大学保健科学部看護学科

3) 愛知県立大学看護学部

の検討が必要であると述べている。このように、母乳育児を行う母親らにとって、気持ちにかかわるケアやエモーショナルサポートの重要性は多く述べられ、それらは、気持ち・感情・情緒にかかわることで共通性をもちながら、「気持ちにかかわるケア」「精神的支援」「情緒的サポート」「エモーショナルサポート」など多様な表現で表されてきた。それでは、母乳育児を行う母親に、様々な母乳育児支援はどのように受け止められ作用しているのだろうか。

研究者は、母乳育児を行う母親らの情緒的側面に作用があったと認知されたかかわりを明らかにし、母親らにどのようにかかわりが行われているのか、母親らがどのようなかかわりを必要としているのかを検討することを目的とし、その第一報として、「母乳育児を行う母親らの情緒的側面・認知的側面に作用した医療者のかかわり」について研究をまとめた（水谷、高橋、恵美須、2012）。その結果において、医療者が良かれと思ってかかわった母乳育児支援において、母乳育児を行う母親にプラスの作用とマイナスの作用が起きていることがわかった。

一方、第一報において、医療者のかかわりを抽出した際、母乳育児を行う母親に対する家族のかかわりも抽出された。初めての母乳育児を行う母親は、出産後5日から6日で退院を迎え、出産前とは違う新しいライフスタイルと環境への適応を求められる。出産後3～4日から2週間ほどの女性は、情緒的に不安定になりやすく（郷久、1989）このような状況で退院を迎える母親への家族のかかわりは非常に重要であることが予測される。また、育児不安については、産後直後から1か月までの第一子をもつ母親の授乳についての不安が最も高いことが示されている（島田、杉本、縣他、2006）。これまで、妊・産・褥婦に関する家族のかかわりについての研究においては、夫のサポートが重要であること（喜多、1997）や夫のサポートを有効にするための夫婦への産前教育の必要性（岩田、2003）などの指摘があり、母乳育児についての家族のかかわりについての研究においては、祖母の母乳育児に対する意識に関

する研究（小林、2010；右田、梅野、熊谷他、2010）など、家族が個々にアプローチする取り組みについてその事象が明らかにされてきた。しかし、近年、家族らが適切な対処ができるように援助する専門職の役割が重要といわれる中で、母乳育児を行う母親を取り巻く、家族のかかわりの全体をとらえた研究は少ない。母乳育児を行う母親に良かれと思ってかかわった医療者のかかわりにも、プラスとマイナスの作用があったことから、退院後の母親を支える家族のかかわりについても明らかにする必要があったと考えた。そこで、初めて母乳育児を行う母親が認知した家族のかかわりがどのようなものであり、どのような情緒的作用があったのかを明らかにすることを目的に本研究を行うこととした。

II. 研究方法

1. 用語の定義

本研究で「母乳育児」は母乳のみを与えているものから少しだけ母乳を与えているものまでを含み、哺乳方法は直接母乳のみでなく、授乳カップ・哺乳瓶・人工乳首・チューブを問わない。「家族」とは、絆を共有し、情緒的な親密さによって結びついた、しかも家族であると自覚している2人以上の成員である（Friedman、野嶋他訳、1993）とし、「母乳育児を行う母親」については、初産婦に限定した。また、「里帰り」とは、出産前後に実家に戻った娘が実母から産後支援を受け3週間以上実家に滞在することとした。そして、「情緒的側面」は母乳育児を行う母親らの、喜び・不安・怒り・悲しみ・苦しみなどの感情として定義して使用する。

2. 研究デザイン

質的記述的研究。

3. 研究対象者

母乳育児経験のある経産婦と初産婦では、母乳育児に対する思いや行動に偏りがあることが考えられる。また、研究結果に影響を及ぼすことが考えられる多胎妊娠や異文化的背景をもつ母親を除く必要が

表1. 研究対象者の概要

年齢	退院時の 栄養方法	1か月時 栄養方法	退院後の 帰宅先	実母の仕事
20代後半	母乳	母乳	里帰り	専業主婦
20代後半	母乳	母乳	里帰り	常勤
20代後半	母乳	母乳	里帰り	パート勤務
30代前半	母乳	母乳	里帰り	専業主婦
30代前半	母乳	母乳	里帰り	パート勤務
30代後半	母乳	母乳	里帰り	専業主婦
30代前半	母乳	母乳	里帰り	常勤
30代後半	母乳	母乳	里帰り	専業主婦
30代前半	母乳	母乳	里帰り	パート勤務
20代前半	母乳	母乳	里帰り	専業主婦
30代後半	母乳	母乳	里帰り	専業主婦
20代前半	混合	母乳	里帰り	専業主婦
30代前半	混合	母乳	里帰り	専業主婦
30代前半	混合	混合	自宅	専業主婦
30代前半	混合	混合	里帰り	常勤
30代前半	混合	混合	里帰り	専業主婦
30代前半	混合	混合	自宅	専業主婦

《栄養方法について》

母乳：母乳栄養のみで授乳を行っている

混合：母乳栄養と人工栄養を併用して授乳を行っている

ある。以上の点から、妊娠経過、分娩形態、産後の経過に異常がなく、児の出生時期・体重・発育がいずれも正常に経過した、できれば母乳で育てたいと母乳育児を希望し、産後1か月（3週間以上6週間未満）の時点で研究協力の同意が得られた母乳育児を行っている初産婦17名（多胎妊娠、異文化背景を除く）を対象とした。

4. データ収集と方法

データ収集は、Aクリニック1施設において、2009年3月から7月、産後1か月健診の終了時に、施設側から対象に当てはまる対象者の紹介を受け、研究者が文書と口頭による研究協力依頼を行い、同意の得られた対象者へ、妊娠期から産後1か月までの「母乳育児についての思いや行動」について、その理由とともに、40分から60分程度の半構成的面接を行った。なお、面接はプライバシーが確保できる場所で行い、承諾を得てICレコーダーに録音した。

5. 分析方法

得られたデータを逐語録におこし、はじめに宗像の感情表（宗像，2008）に従って、母親の語りの中から情緒的な表現がされた部分を抽出し、プラスま

たはマイナスの情緒に分類した。次に、その情緒をおこしたと母親自身が認知した家族のかかわり場面を抽出し、どのような家族のかかわりが「情緒」に作用していたかを抽出してコード化し、サブカテゴリーへと抽象度を上げ、類型化してカテゴリーを抽出した。そして、カテゴリーの内容から、大カテゴリーを生成した。データ収集および分析は、研究者が1名で行い、母性看護・助産学の専門家1名と質的研究に精通した専門家1名のスーパービジョンを受けた。

6. 倫理的配慮

研究対象者に対し、研究目的と方法、面接中の心理的負担や児の世話などによる中断または中止も可能であること、データは研究以外に使用しないことやプライバシーの保護と守秘義務を説明し、同意を得た。なお、本研究は愛知県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

III. 結果

研究対象者の概要を表1に示す。母乳育児を行う母親の語りの文脈から、家族のかかわりが作用した100場面を抽出し分析した。家族のかかわりからは、100のコード、23のサブカテゴリーが抽出され、プラスに作用した4つのカテゴリーと、マイナスに作用した5つのカテゴリー、合計9つのカテゴリーが抽出された。カテゴリーの内容から、プラスに作用した《母乳育児に専念させる家族のかかわり》とマイナスに作用した《母乳育児を妨げる家族のかかわり》という2つの大カテゴリーが生成された（表2参照）。

以下に、大カテゴリーごとにその内容について記載する。【 】はカテゴリー、[]はサブカテゴリーとし家族のかかわりの抽出の根拠となった語りの一例を「 」に示す。

1. プラスに作用した《母乳育児に専念させる家族のかかわり》

1) 【母乳育児を行う母親の気持ちに寄り添うかかわ

表2. 母乳育児を行う母親の情緒的側面に作用があった家族のかかわり

作用	大カテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
プラスの作用	1. 母乳育児に専念させる家族のかかわり	1. 母乳育児を行う母親の気持ちによりそうかかわり	①母乳育児を応援してくれる ②母乳育児を頑張っていることを認めてくれる ③母乳育児について話を聞いてくれる ④子どもの成長を気にかけて体重が増えたと一緒に喜んでくれる ⑤気にかけて見守ってくれる
		2. 母乳育児を行う環境を整えてくれるかかわり	①母乳育児の身体的な疲れを軽減してくれる ②母乳育児に専念できるよう家事を手伝ってくれるかかわり ③母乳育児を栄養面で支えてくれるかかわり ④家族同士で調整するかかわり
		3. 母乳育児に限らず夫が妻として気遣ってくれるかかわり	①夫が妻として気遣ってくれる ②夫は母乳育児にこだわりがないので気軽にさせてくれる
		4. 母乳育児の経験からくる実母・義母のかかわり	①母乳で子どもを育てた経験のある母親がそばにいる ②母乳育児の経験から、実母や・義母が大丈夫と言ってくれる
マイナスの作用	2. 母乳育児を妨げる家族のかかわり	5. 母乳育児の知識不足からくるかかわり	①母乳育児についての思いやりのない態度や言葉がけ ②母乳育児のことをよく知らないかかわり
		6. 安易にミルクを勧めるかかわり	①安易にミルクを勧めるかかわり
		7. 父親になりきれない夫のかかわり	①母乳育児に関心がない夫のかかわり ②里帰りにより限定された夫のかかわり
		8. 実母・義母が、母乳育児の経験や昔の知識に当てはめるかかわり	①実母や義母が母乳育児の経験や昔の知識に当てはめる ②時代背景の違いによる栄養についてのかかわり
		9. 家族が働いていることによる期待できない母乳育児へのかかわり	①働いている家族に気疲れやもうしわけない気持ち起こさせるかかわり ②実母が働いていることにより十分に手伝えない

り]

このカテゴリーは、5つのサブカテゴリーで構成された。① [母乳育児を応援してくれる] は、「母は母乳のほうがいいとって、母乳育児を率先して応援してくれた」「母乳で育てようかなと言ったら、そのほうが楽だよ、手伝ってあげるからそうしなさいと言ってくれた」「夫も母乳で育ったので、妊娠中から母乳で育てることを応援してくれた」「パパが、おっぱいが上手に吸えるように、がんばれ、吸えるぞと、ハンカチ握りしめて応援してくれた」という、母乳育児を応援してくれるかかわりであっ

た。② [母乳育児を頑張っていることを認めてくれる] は、「おっぱいで育てたことのない母が今では私より母乳育児の良さをみんなに話している」や、「母が親戚の人に聞かれて、根性がある、母乳を続けるのは、なかなかできないことだと話してくれた」、 「夫が母乳が出ることはすごい、俺にはおっぱいがないから泣き止んでくれないと言って、遠まわしに母乳で育てていることを褒めてくれる」という母乳育児を頑張っていることを認めてくれるかかわりであった。③ [母乳育児について話を聞いてくれる] は、「愚痴もこぼしてしまうけどなんかあった

ら、母が相談に乗ってくれる」「授乳で寝不足が続
き、夫に対してイライラきたりしたこともあった
が、母が話を聞いてくれた」「夫はおっぱいのこと
で悩むと何でも聞いてくれた」など母乳育児につ
いて話を聞いてくれるかかわりであった。④「子ども
の成長を気にかけて体重が増えたと一緒に喜んでく
れる」は、「夫は子どもが飲んだ母乳の量が増えたと
一緒に喜んでくれた」「義母が、おっぱいがたくさ
ん飲めていて体重が増えたことを私より喜んでく
れる」という、子どもの成長を気にかけて一緒に喜ん
でくれるかかわりであった。⑤「気にかけて見守っ
てくれる」は、「次の日に仕事があるのに母親が部
屋を見に来てくれる」「母乳がなかなかうまく吸わ
せられなくて追い詰められた私に、母が2時間くら
い子どもを預かるから違う部屋で休みなさいと言
ってくれた」「母乳育児に必死になって周りが見
えなくなっていた私に、母が気付いて休ませてくれ
た、自分ではどうしていいのかわからなかったが、
休んだら少し落ち着いた」「母は母乳で育てたこと
がないから、一回だけミルク買って来ようかと聞い
たけど、私が困ったらおっぱい外来に行つて相談す
るといったら、それ以上は言わず、見守っていてく
れた」というような、家族が気にかけて見守ってく
れるかかわりであった。

2) 【母乳育児を行う環境を整えてくれるかかわり】

このカテゴリーは、5つのサブカテゴリーで構成
された。①「母乳育児に専念できるように身体的な
疲れを軽減してくれる」は、「母も寝不足でふらふ
らなのに、私を休ませるために、孫を抱いていつも
ニコニコしていた」「授乳後に子どもが泣き止まな
くて途方にくれていると、夜中でも母が起きて変
わってくれた」「寝不足にならないように、朝のお
っぱいの後は母が見ていてくれて、3時間くらいぐ
つと寝れるようにしてくれた」や、「夫が授乳で寝不
足なときに、手伝えることはするから寝ろと言っ
てくれた」「母乳を飲ませたあとに、ミルクもあるの
で、夜中でも夫が自然に手伝ってくれた」という身
体的な疲れを軽減してくれるかかわりであった。②

「母乳育児に専念できるように家事をしてくれる」
は、「実家では身の回りの世話はするから子どもの
ことだけすればいいと言ってくれた」「実家の母が
昼間は授乳以外のことは気兼ねなく引き受けてく
れる」「子どもがおっぱいを欲しがると、夫が家事を
代わってくれた」「祖母も子どもが泣いているとお
っぱいをあげなさいと言ってできることは代わっ
てしてくれる」という、家事をしてくれるかかわり
であった。③「母乳育児が行えるよう生活環境を整
えてくれるかかわり」は、「義理の母が入院中と同
じように母乳育児に専念できるようにクッションや
ベッド回りの環境を整えてくれる」「夜中に授乳し
ていたら、父がしまつてあつたヒーターを出してく
れた」という生活環境を整えてくれるかかわり
であった。④「母乳育児を栄養面で支えてくれるか
かわり」は、「母が、母乳に良い食事を栄養士さんに
聞いたりして、作ってくれた」「私は和食を作るの
が苦手なので、義母がおっぱいのためにと毎
日作ってくれた」「夜中におっぱいあげながら、お
なかが空いたなという頃に、母がおにぎりを作っ
ておいてくれる」「母は姉の里帰りで経験があり、母
乳に良い食事を作ってくれた」などの母乳育児を
栄養面で支えてくれるかかわりであった。⑤「家族
同士で役割を調整するかかわり」は、「夫の実家に
里帰りするのは気を遣うだろうと、家族で話し合
つて、自宅に義母が毎日来てくれた」「実家に共働
きの兄夫婦がいるので、迷惑をかけると思つてい
たら、週末だけ母親が泊まりで手伝いに来てくれ
ることになり、夫もお風呂とか、たくさん手伝っ
てくれた」「初めの2週間は実家で、少し慣れたら、
お義母さんが自宅に手伝いに来てくれた、実家の
母が働いていて、長期休暇は取れないから、お互
いの家族が話し合つて決めた。母乳育児にも最
初の2週間ですぐ慣れて、ちょうど良いタイ
ミングだった」というような家族の形態や状況に
応じて母乳育児を行う母親を迎える方法を考
えるかかわりや、「母乳育児のことで心配して
いる義母に、夫が私の代わりに説明してく
れた」「家族も疲れるから、交代に抱

こしたり、お風呂に入れたりしてくれた、そうするとみんなが、子どものことで、一つになるような感じだった。誰かに負担をかけていると頼みにくいけど、みんなが協力してくれたので居心地がよかった」「母乳育児の経験のある姉が実家に来て家族にいろいろ教えてくれる」のように、家族同士が役割を調節しあうかかわりであった。

3) 【母乳育児に限らず夫が妻として気遣ってくれるかかわり】

このカテゴリーは、2つのサブカテゴリーで構成された。① [夫が妻として気遣ってくれる] は、「無理はするな、身体壊すなよいつも心配してくれた」「いらいらしたので、子どもと離れてひとりで休んでいる私に、夫がひとりしていると寂しいでしょと聞きに来てくれた」「夫は、母乳がよく出ることを、お前すごいな、ありがとうと言ってくれる、でも子どものことも大事だが、お前の身体も心配だと言ってくれる」など、子どもの母親としてではなく、夫が妻として気遣ってくれるかかわりであった。② [夫は母乳育児にこだわりがないので気軽にさせてくれる] は、「夫には母乳育児の知識がないので、気軽にもう辞めたいとか、ミルクのほうが楽かなとか言える」「母乳育児の愚痴をこぼすと、病院の人や実母には母親なんだから頑張りなさいと言われそうだが、夫は母乳育児にこだわっていないからほどほどでいいんじゃないと言ってくれる」など、夫が母乳育児にこだわらないことがプラスに作用したかかわりであった。

4) 【母乳育児の経験からくる実母・義母のかかわり】

このカテゴリーは、2つのサブカテゴリーで構成された。① [母乳で子どもを育てた経験のある母親がそばにいる] は、「兄弟三人を母乳で育てた母がそばにいて、話を聞かせてくれた」「義理のお母さんが、母乳で育てると体型が早く戻ったことや最初は大変だけど、一人目頑張れば後が楽なことも教えてくれた」「母は、完全母乳も混合栄養の経験もあるから、母がいるだけで安心できた」という、母乳育児経験のある母親がそばにいるというかかわりで

あった。② [母乳育児の経験から、実母や・義母が大丈夫と言ってくれる] は、「子どもが吐いたとき不安になったが、母が大丈夫だと言ってくれた」「イライラしておっぱいが足りているのか不安で、何で起きないのと子どもに怒鳴ったときに、こんなにウンチが出ていたら十分だ、おなかが空いたらおっぱいを飲むから心配するなと母が言った」「義母が、1か月間母乳で育てたんだからもう大丈夫、経験からそういうもんだと言ってくれる」など、母乳育児の経験から、実母や義母が大丈夫と言ってくれるかかわりであった。

2. マイナスに作用した《母乳育児を妨げる家族のかかわり》

1) 【母乳育児の知識不足からくるかかわり】

このカテゴリーは、2つのサブカテゴリーで構成された。① [母乳育児についての思いやりのない態度や言葉をかける] は、「母が面会に来て、まだ母乳が出ないのとか、授乳の姿勢をそんな危なっかしい抱き方で飲めるのとかいちいち言った」「ミルクを足すことになったと話したら、夫が、母乳は誰でも出るもんじゃないんだと言った」「子どもが泣いているとお腹がすいているのではないかと、母乳が足りないのではないかと、可哀想だから泣かせるなどみんなに言われる」「頻回授乳で頑張っているときに、夫が、おっぱいが出ないのに吸わされて泣いていると嫌な顔をした」という、家族の思いやりのない態度や言葉をかけるかかわりであった。② [母乳育児のことをよく知らないかかわり] は、「夫から、短い時間でおっぱいをあげすぎじゃないと言われて」「夫が私を喜ばせようとして、母乳育児中は、お菓子とかケーキとかは控えていると話しても、どんどん買ってくるので腹が立った」など、母乳育児の知識が不足しているかかわりであった。

2) 【安易にミルクを勧めるかかわり】

このカテゴリーは、[安易にミルクを勧めるかかわり] から成り、「母は、おっぱいをあげても泣くんだから、ミルク足したほうがいいんじゃない？ お風呂上りにおっぱいなんておかしい、湯冷ましを

飲ませたほうが良いと、年のせいや何度も同じことを言う」「母に、昨日の夜はよく泣いたと話すと、ミルク足したらあなたも休めるし、赤ちゃんもひもじい思いをしなくて済むと言われる」「母乳が足りているのか心配で寝不足になっていた時に、夫に、そんなに大変ならミルクを足せばいいと言われた」「母はミルクに対して親しみが有り、一度勝手に私の知らないうちに子どものミルクの量を増やしていた」「父は、かわいそうだから、ひもじい思いはさせるなど、遠まわしにミルクを勧める」など、安易にミルクを勧めるかかわりであった。

3) 【父親になりきれない夫のかかわり】

このカテゴリーは、2つのサブカテゴリーから構成された。① [母乳育児に関心がない夫のかかわり] は、「夫に、母乳が飲めるようになったと話しても、反応がなく母乳育児に対して関心がない」「夫にも授乳以外のことを手伝って欲しいが、子どもが生まれたあとも自分のことが第一みたいな言動がある」「夫に授乳以外のことを手伝って欲しいという嫌々な態度です」「夫はつわりで辛かったときにも無関心で健康なんだからという扱いを受けていたので、母乳育児が大変でも手伝ってくれると思えない」などの、父親になりきれない夫のかかわりであった。② [里帰りにより限定された夫のかかわり] は、「本当は授乳の大変さとか話を聞いて欲しいが、実家にいるので夫は週末だけ会いに来るため話す時間がない」「里帰り中は、夫は良い部分だけしか見ていないので、母乳育児の大変さがわからないので、今後が不安」「休みの日に会いに来て、昼間しか見ていないので、夫は夜中の授乳の苦勞を知らない」という、里帰りにより限定された夫のかかわりであった。

4) 【実母・義母が、母乳育児の経験や昔の知識に当てはめるかかわり】

このカテゴリーは、2つのサブカテゴリーで構成された。① [実母や義母が母乳育児の経験や昔の知識に当てはめる] は、「実家の母も母乳があまり出なかったからあなたも出ないかもと言われた」「実

母はミルクを足したら、すぐに母乳を飲まなくなったと言っていた」「義母が、母乳パットが濡れるくらいおっぱいが出ていないと足りないのではないかとだったので不安になった」など、実母や義母が母乳育児の経験や昔の知識に当てはめるかかわりであった。② [時代背景の違いによる栄養についてのかかわり] は、「実家の母は母乳育児のために食事を考えて作ってくれていたが、もっと栄養のあるものを食べさせたほうが良いと義母が言った」「母乳を出すためには赤飯とか餅とか食べたほうが良いと母に言われた」という、時代背景の違いによる栄養についてのかかわりであった。

5) 【家族が働いていることによる期待できない母乳育児へのかかわり】

このカテゴリーは、2つのサブカテゴリーで構成された。① [働いている家族に気疲れやもうしわけない気持ち起こさせるかかわり] は、「母はパートをしていて、毎日ではないが朝早く働きに行くことがあったので、次の日が仕事だとわかっていると夜は泣かないようにずっと抱っこしたりして気を遣った」「実家の母は、仕事をもっているのだから、子どもが夜に泣き続けると気を遣った」というかかわりであり、娘が里帰り中も仕事やパートは休まないという実母が、17名中6名いた。② [実母が働いていることにより十分に手伝わえない] は、「母は仕事をしていて食事の用意はしてくれるが夜の授乳などははっきりしていかかわらなかつた」「実母は同居しているが昼間は仕事に出かけているので、疲れて帰ってくると悪いと思って、いろいろ頼めなかつた」「実家の母は、仕事をもっていて大変そうなので、無理は言えず、昼間に家族の洗濯とかついでにやったりして気を遣った」という、実母が働いていることにより十分に手伝わえないかかわりだった。

以上より、本研究において抽出された、母乳育児を行う初産婦の情緒的側面に作用した家族のかかわりには、情緒的側面にプラスに作用したかかわりとマイナスに作用したかかわりがあった。また、それらは、母乳育児に専念させるかかわりと母乳育児を

妨げるかかわりに大きく分けられた。また、家族（夫、実母、義母も含む）のかかわりにおいては、プラスに作用した【母乳育児を行う母親の気持ちに寄り添うかかわり】【母乳育児を行う環境を整えてくれるかかわり】とマイナスに作用した【母乳育児の知識不足からくるかかわり】【安易にミルクを勧めるかかわり】【家族が働いていることによる期待できない母乳育児へのかかわり】があった。夫のかかわりにおいては、プラスに作用した【母乳育児に限らず夫が妻として気遣ってくれるかかわり】とマイナスに作用した【父親になりきれない夫のかかわり】、実母・義母のかかわりにおいては、プラスに作用した【母乳育児の経験からくる実母・義母のかかわり】とマイナスに作用した【実母・義母が、母乳育児の経験や昔の知識に当てはめるかかわり】があり、かかわる家族の立場によっても分けられた（図1参照）。

IV. 考 察

本研究の結果から、母乳育児を行う母親の情緒的側面に作用した家族のかかわりの特徴について、今

後の課題を含めて考察する（図1参照）。

1. 家族成員各々のかかわりと家族としてのかかわり

これまで、先行研究においては、妊・産・褥婦に関する家族のかかわりについて、夫のサポートが重要であること（喜多，1997；岩田，2003）や、育児期の母親がもっとも頼れるのは夫であり、夫が育児に参加することは母親や子どもの発達に重要な影響を与える（数井，無藤，園田，1996；神崎，2000）と述べられてきた。しかし、社会的立場のある働き手である夫のサポートには限界もあり、近年では、家庭内における夫以外のサポートの重要性も述べられている（渡辺，石井，2009）。また、母乳育児を行う母親にとって、実母・義母の母乳育児に対する意識に関する研究（右田他，2010）や情報源と力において実母の影響がプラスに作用していたこと（井関，南田，白井，2006）など、実母・義母のかかわりについても多く研究されてきた。野澤は、これまでの育児期の母親へのサポート源についての先行研究を検討し、祖父母・夫・友人からのサポートが重要であると述べている（野澤，2009）。今回の研究結果においても、図1に示したように、家族のかか

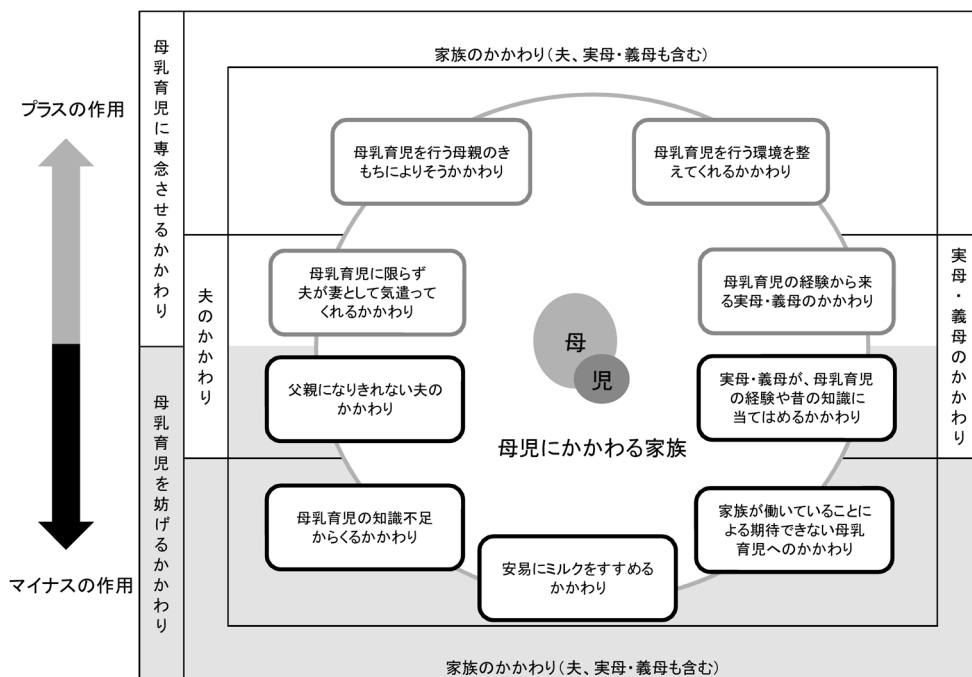


図1. 母乳育児を行う初産婦の情緒的側面に作用した家族のかかわり

わりの中には、夫のかかわりや実母・義母のかかわりが抽出された。その内容について夫・実母・義母とのかかわりが母乳育児を行う母親にとってプラスにもマイナスにも作用していたことは、これまでの先行研究と一致する結果であった。しかし、先行研究においては、家族の中の夫・実母・義母など家族成員のかかわりの実態について個々に分析しているものが多く、実態を通して家族全体のかかわりをとらえて分析した研究は少ない。本研究においては、家族の誰からでも可能なかかわりが、家族のかかわり（夫・実母・義母を含む）として分類され、プラスに作用した【母乳育児を行う母親の気持ちに寄り添うかかわり】【母乳育児を行う環境を整えてくれるかかわり】、マイナスに作用した【母乳育児の知識不足からくるかかわり】【家族が働いていることによる期待できない母乳育児へのかかわり】が明らかになったことは特徴的であった。

母乳育児を行う母親は、家族の中の誰からでも、母乳育児に関して肯定的な印象や「応援しているよ」というメッセージを声に出して伝えられるなど気持ちに寄り添うかかわりを受けることにより、情緒的側面にプラスの作用を受けていた。母親らは、家族が母乳育児についてどのように思っているのか、母乳育児をしている自分がどのように思われているのかについて、直接自分に言われた言葉ではなく、他の家族から聞いた言葉も印象的に覚えており、家族の誰かに母乳育児を頑張っていることを認めてもらうことが気持ちを支えるかかわりとなっていた。このことから、医療者は、家族成員の状況として母親へのかかわりのバランスなどをアセスメントしつつ、夫以外にも、特定の家族成員にこだわらない家族のサポート体制を促すことの有効性を十分に認識して援助することが必要と考える。また、母乳育児を行う【母親の環境を整えるかかわり】において、[家族同士で役割を調整するかかわり]が抽出されたことは特徴であった。母親は、母乳育児について、義母との間の調整役として夫に間に入ってほしいときもあることや、自分の実家と夫の実家の

お互いの家族が話し合って退院後のかかわりを決めることなど、家族みんなが子どものことで一つになっている家族の団結感や、家族の誰か一人に負担をかけることは気兼ねするが、家族みんなが子どもの世話をしてくれることに対しては、子どもと自分を一体化させて自分が大切にされていると感じ、家族のかかわりをプラスの作用として受け入れていた。この結果から、家族同士が、家族の形態や状況に応じて、円滑な家族のかかわりを考えることや、母乳育児を行う母親の環境を整える工夫をすることが母乳育児を行う母親に求められている家族のかかわりであると考えた。医療者はこのような状況が効果的に作用することをふまえ、何気ない会話の中から家族成員の調整機能について賞賛し、認識を持ってもらうことが大切と考える。

2. 母乳育児を行う母親を取り巻く家族の母乳育児への知識と理解

これまでの先行研究では、夫のサポートを有効にするための夫婦への産前教育の必要性（小林, 2009）が述べられ、夫にも妊娠中から母乳育児の知識を提供し、退院後の母乳育児への理解や支援を求めることが大切であるとされてきた。本研究においても、母乳育児への夫の知識や理解がプラスに作用していたことは先行研究と一致している。しかしその一方で、【母乳育児に限らず夫が妻として気遣ってくれるかかわり】の中で、「夫に母乳育児の知識がないので、気軽にもう辞めたいとか、ミルクのほうが楽かなとか言える」や、「母乳育児の愚痴をこぼすと、病院の人や実母には母親なのだから頑張らなさいと言われそうだが、夫は母乳育児にこだわっていないからほどほどでいいんじゃないと言ってくれる」というなど、夫が母乳育児にこだわらないことがプラスに作用していたことは、特徴的であった。

またこれまで、実母側に、里帰りした娘の役に立っていないと感じたという「低い自己評価」や、娘との不協和音を起こしている「役割葛藤」がある（井関, 南田, 大橋, 2013）と述べられていたが、

本研究において、娘が里帰り中も仕事やパートは休まないという実母は、17名中6名であり、[働いている家族に気疲れやもうしわけない気持ち起こさせるかかわり]や[実母が働いていることにより十分に手伝えない]というかかわりが母乳育児を行う母親側からも抽出された。また、[実母や義母が母乳育児の経験や昔の知識に当てはめる]が抽出されていることから、これらのような母乳育児を行う母親の情緒的側面にマイナスに作用した家族のかかわりは、先に述べた実母側が感じている「低い自己評価」や、「役割葛藤」について、娘である母親側からみた現象として抽出されており、立場を変えた表現ではあるが、近年の里帰り育児の共通した状況を示していると考えられる。

また、実母がミルクを勧める場合、母乳育児の継続が困難になるなど、実母の母乳意識は、褥婦の混合栄養育児移行に影響しやすいこと(岩井, 川由, 2001)が明らかにされているが、本研究においては、実母・義母以外の実父や夫などからも【安易にミルクを勧めるかかわり】があった。さらに、母乳育児についての思いやりのない態度や言葉がけとして、「母乳が足りないのではないかと、可哀想だから泣かせるなど家族みんなに言われると、一人になりたかった」など、家族みんなに言われることで、家族とのかかわりを避け、家族の中で孤独を感じてしまうことがわかった。そして、【母乳育児を行う環境を整えてくれるかかわり】においては、「義母が母乳育児の栄養面を支え、その食事を母親が食べて、その母乳を子どもが飲んで、親子3代が繋がっているんだなって感じることで幸せだ」、「義母に和食の作り方を教えてもらい食事にも気をつけるようになって、家族がみんな健康になれる気がしてよかった」など、家族の中で母乳育児を行う母親へのかかわりが一方向のみでなく循環し、家族同士が繋がっていくような作用があったことは、これまでの先行研究では述べられていなかった。

3. 期待できない家族のかかわり

これまでの先行研究においても、里帰り分娩がリ

スクファクターとなる傾向(樋口, 2001)があった。本研究においては、母乳育児を行う母親が、働いている家族に対して気遣うことが情緒的にマイナスに作用していた。女性のパート就業率は、平成13年と比べて平成23年で全体的に増えているが、実母・義母の年代である50歳から65歳までの女性についても同様に就業率は年々高くなっており(厚生労働省, 2010)、先にも述べたが、本研究においても、娘の里帰り中も仕事は休まないという実母が、17名中6名いた。そのことによって、母乳育児を行う母親は、特に夜間の子どもの頻回の泣き声について、働いている家族への対応による気疲れや、もうしわけないという気持ちをもっていた。また、里帰りをしてみたものの、実母や家族が働いていることにより、期待していた育児への援助が得られず、【家族が働いていることによる期待できない母乳育児へのかかわり】が抽出された。このことから、里帰りをする家族の環境によっても、母乳育児を行う母親への作用が違うことがわかった。また、里帰りを行うことで、夫との時間が制限され、離れていることから夜間の授乳の大変さなどを夫に理解してもらえていないのではないかなど、【父親になりきれない夫のかかわり】において、里帰りという方法における家族の分離が自宅に帰ってからの不安を生み出す要因にもなっていた。

4. 看護への示唆

以上の結果から、これからの母乳育児支援について考えると、母乳育児に母親が没頭している心境の中で、母乳育児にこだわらない夫がほっと一息気を抜ける存在になっていたことから、医療者は、母乳育児の知識や関心を教育することで家族のかかわりを強化していくことだけでなく、母親を取り巻く環境に逃げ場がなくなることがあってはならないという視点をもつことが大切であるということがわかった。また、実母や義母の経験がプラス・マイナスの両義性に作用したことや、実母や義母だけでなく、どの家族成員においても、安易にミルクを勧めるかかわりがあることが明らかになったことから、良か

れと思っとなされる身近な経験者や家族のかかわりについて、家族の母乳育児への知識と理解を十分にアセスメントしながら、母親が混乱なく母乳育児を続けられるよう支援することが大切ではないかと考える。そして、母乳育児を行う母親にとって、里帰りに伴う家族の分離は、自宅に帰ってからの不安を生み出す要因のひとつにもなっていたことや、子育ては夫婦で分担するものという意識を夫が持っている方が母親の育児不安が少ない(石橋, 大坪, 正崎他, 2002)という先行研究の結果を合わせて考えると、今後、母乳育児を行う母親への、里帰りのプラス面・マイナス面の情報提供や、里帰り後に自宅に帰る時の不安への対処などについて考える必要がある。

最後に、本研究の結果より、現在はっきりと定義されていないエモーショナルサポートについて検討すると、母親の情緒的側面にプラスに作用したかかわりが母親の求めている家族のエモーショナルサポートであると考えられる。また、マイナスに作用した家族のかかわりについては、医療者が再考し、家族への情報の提供を検討する必要がある課題であると考えられる。

本研究は1つの施設で調査を行ったため、研究結果の偏りがあると考えられる。今後は、施設や対象者を増やし、母乳育児を行う際の人的・物的環境を背景とした家族のかかわりをアセスメントしながら、家族特性に適した指導プログラムにつなげていけるように、家族全体をふくめた母乳育児支援の体制を考え、研究を継続していきたい。

V. 結 論

情緒的側面に作用があったと母親自身が認知した家族のかかわりは、100のコードから23のサブカテゴリーが抽出された。《母乳育児に専念させる家族のかかわり》となった、プラスに作用した4つのカテゴリーは、【母乳育児を行う母親の気持ちに寄り添うかかわり】【母乳育児を行う環境を整えてくれ

るかかわり】【母乳育児に限らず夫が妻として気遣ってくれるかかわり】【母乳育児の経験からくる実母・義母のかかわり】が抽出された。そして、《母乳育児を妨げる家族のかかわり》となった、マイナスに作用した5つのカテゴリーは、【母乳育児の知識不足からくるかかわり】【安易にミルクを勧めるかかわり】【父親になりきれない夫のかかわり】【実母・義母が、母乳育児の経験や昔の知識に当てはめるかかわり】【家族が働いていることによる期待できない母乳育児へのかかわり】であり、合計9つのカテゴリーが抽出された。それらは、家族(夫, 実母, 義母も含む)のかかわり, 夫のかかわり, 実母・義母のかかわりという, かかわる家族の立場によっても分けられた。母乳育児を行う母親の情緒的側面にプラスに作用した《母乳育児に専念させる家族のかかわり》が、母親が求めている家族のかかわりであると考えられる一方で、マイナスに作用した《母乳育児を妨げる家族のかかわり》があることがわかった。

謝 辞

本研究にご協力いただきました母乳育児を行っているお母様方、フィールドを提供していただきました施設の方々に、心より感謝を申し上げます。

{ 受付 '13.06.14 }
{ 採用 '14.02.17 }

文 献

- Friedman, M. M. / 野嶋佐由美, 菊井和子, 岸田佐智他訳, 家族看護学:へるす出版, 東京 (1986/1993)
- 橋本武夫: 母乳育児なんでもQ&A, 5, 婦人生活社, 東京, 1994
- 樋口正俊: 里帰り分娩(出産)はリスクファクターか, 周産期医学, 31(6): 785-789, 2001
- 本郷寛子: 母乳育児支援カウンセリング, 助産雑誌, 54(6): 15-20, 2000
- 石橋君子, 大坪智美, 正崎仁恵他: 夫婦の意識が相互の育児不安に及ぼす影響, 母性衛生, 43(4): 541-548, 2002
- 岩井弥生, 川由京子: 実母の母乳育児意識と褥婦の混合栄養育児移行との関係助産婦雑誌, 55(6): 538-544, 2001
- 岩田銀子: 妊婦の不安に対するソーシャルサポートの効果, 北海道大学大学院教育学研究科紀要, 88: 151-158, 2003

- 井関敦子, 南田智子, 大橋一友: 里帰り分娩を行った娘に対する実母の支援姿勢と支援を通じて体験した思い, 母性衛生, 54(1): 191-199, 2013
- 井関敦子, 南田智子, 白井瑞子: 授乳に関する母親の価値観に影響を与えた情報源と力, 三重看護学誌, 8: 65-73, 2006
- 神崎文子: 子育てと夫婦の関係, 教育と医学, 48(8): 43-49, 2000
- 数井みゆき, 無藤隆, 園田菜摘: 子どもの発達と母子関係・夫婦関係—幼児を持つ家族について—, 発達心理学研究, 7(1): 31-40, 1996
- 喜多淳子: ニンフが認知するソーシャルサポートとソーシャルネットワークの質についての検討 (第1報), 日本看護科学学会誌, 17: 8-21, 1997
- 小林佐和子: 乳児を持つ母親の抑うつ傾向と夫からのサポートおよびストレスへのコントロール可能性との関連, 発達心理学研究, 20(2): 187-197, 2009
- 小林由希子: 出産前後の里帰りにおける実母の援助と母子関係・母性性の発達, 日本助産学会誌, 24(1): 28-39, 2010
- 厚生労働省: 平成17年度乳幼児栄養調査結果の概要. 母乳育児に関する妊娠中の考え, 2005. <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/06/h0629-1.html>, 2010年12月07日
- 厚生労働省: 平成23年版 働く女性の実情, 2010. http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/dl/11_gaiyou.pdf, 2013年10月10日
- 右田温美, 梅野貴恵, 熊谷淳二他: 祖母の母乳育児に対する意識に関する研究—祖父母学級受講の有無による比較—, ペリネイタルケア, 29(8): 92-99, 2010
- 水谷さおり, 高橋弘子, 恵美須文枝: 母乳育児を行う母親の情緒的側面・認知的側面に作用した医療者のかかわり, 愛知県立大学看護学部紀要, 18: 19-29, 2012
- 宗像恒次: 感情と行動の大法則, 23, 日総研, 名古屋, 2008
- 名和文香, 服部律子, 堀内寛子他: 赤ちゃんにやさしい病院 (BFH) における母乳育児支援の実態と課題, 岐阜県立看護大学紀要, 7(2): 65-72, 2007
- 野口真弓: ケアの受け手の認識にもとづく母乳ケア過程, 日本看護科学会誌, 19(3): 38-46, 1999
- 野澤義隆: 同居家族の違いが乳幼児をもつ母親の育児ストレスとソーシャル・サポートに与える影響, 立正社会福祉研究, 11(1): 29-35, 2009
- 郷久鉞二: マタニティ・ブルー, 4-5, 同朋舎, 京都, 1989
- 島田三恵子, 杉本充弘, 縣俊彦他: 産後1か月間の母子の心配事と子育て支援のニーズおよび育児環境に関する全国調査—「健やか親21」5年後の初経産別, 職業の有無による比較検討—, 小児保健研究, 65(6): 752-762, 2006
- 渡辺弥生, 石井睦子: 乳幼児をもつ母親の育児ストレスにソーシャル・サポートおよび自己効力感が及ぼす影響について, 法政大学文学部紀要, 60: 133-145, 2009

The Support of Family Which Acted on the Emotion of First Time Breastfeeding Mothers

Saori Mizutani¹⁾ Yuka Okada²⁾ Keiko Yamaguchi³⁾

1) Aichi Prefectural University Graduate School of Nursing and Health

2) Gifu University of Medical Science Department of Nursing

3) Aichi Prefectural University Department of Nursing and Health

Key words: Breastfeeding, First time breastfeeding mothers, Family, Emotion, Emotional support

Purpose: The purpose of this study is to identify the effect of the support of family which acted on the emotion of first time breastfeeding mothers.

Method: A semi-structured interview was conducted with 17 first time breastfeeding mothers, and qualitative and descriptive research was carried out. The focus was on analyzing the involvement of family in the emotional aspects of the research participants.

Result: A total of nine categories were extracted. 《Involvement of the family who makes it concentrate on breastfeeding》 was generated from a positive effect on the subjects emotionally namely, ① [involvement which nestles up to the feeling of the mother who performs breastfeeding], ② [involvement which improves the environment where breastfeeding is performed], ③ [involvement about which not only breastfeeding but a husband cares as a wife], ④ [involvement of the real mother and mother-in-law who comes from experience of breastfeeding]. 《Involvement of the family who bars breastfeeding》 was generated from a negative effect namely, ⑤ [involvement which comes from the shortage of knowledge of breastfeeding], ⑥ [involvement to which milk is recommended easily], ⑦ [involvement of the husband who cannot turn completely into a father], ⑧ [involvement which a real mother and a mother-in-law apply to experience of breastfeeding, or old knowledge], ⑨ [involvement to breastfeeding by the family working which is not expectable]. Then, they were divided by position of the family.

Conclusion: The directivity of the practical approach to the breastfeeding support to the mother who performs breastfeeding, and its family was suggested.